

別記様式（第6条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称		第23回子ども・子育て会議		
開 催 日 時		令和5年2月27日（月）	開会	10時00分
			閉会	12時00分
開 催 場 所		岩出市総合保健福祉センター 3階多目的ホール		
議長(委員長・会長)の氏名		桑原 義登 委員		
出席者(委員)の氏名		笠松 尚子 委員、芝崎 真由 委員、鈴木 衣里 委員、岸田 友美 委員、菊地 佐知子 委員、宮本 高広 委員、土生川 覚弥 委員、葛葉 真純 委員、松本 千賀子 委員、村田 実 委員、谷本 美佐子 委員、桑原 義登 委員、金川 めぐみ 委員、松本 美早子 委員、高松 千珠 委員、梶本 委津代 委員		
欠席者(委員)の氏名		下地咲紀 委員		
説明等のために出席した者の氏名等				
事務局職員 の 職 氏 名		教育部長 南 智明、生涯学習課長 中西 邦夫 岩出図書館次長 湯葉 美奈子、生活支援課長 森 祐介、地域福祉課長 中井 典枝、子ども・健康課長 福田 勝夫、子育て世代包括支援センター長 塩中 和歌子 子ども・健康課子育て支援係長 時本 さや子 子ども・健康課子育て支援係 主事 山本 貴史		
会 議 事 項	議題	会議結果		
	① 岩出市子ども・子育て会議について ② 令和5年度 管内教育・保育施設利用申し込み状況について ③ こども家庭センター設置について ④ 出産・子育て応援事業について	「会議の経過」のとおり		
会 議 の 経 過		別添のとおり		
会 議 資 料		別添のとおり		
会 議 録 の 確 定	確定年月日	記名押印		
	令和5年3月23日	役職名 岩出市子ども・子育て会議会長 Ⓜ		

会議の経過

議題・決定又は確認事項等

1. 【開会】

10時00分

2. 【委嘱状及び任命書交付】

岩出市長から委嘱状及び任命書の交付をおこなう。

3. 【市長あいさつ】

岩出市長 中芝正幸 あいさつ

4. 【委員紹介、事務局紹介】

各委員自己紹介、事務局職員紹介

5. 【会長、副会長選出】

委員の互選により、会長に桑原義登委員、副会長に金川めぐみ委員が選出され承認となる。

6. 【議事概要】

<事務局>

議題①岩出市子ども・子育て会議について

➤ 事務局より概要、設置経緯、役割、こども家庭庁創設、こども基本法の成立について説明する。

(質問 委員A)

幼稚園とこども家庭庁との関係はどうなっているのか。

(回答 事務局)

子ども・子育て支援法の中での新制度に移行している幼稚園や認定こども園については現在も内閣府の管轄となっており、こども家庭庁創設後はこども家庭庁の管轄になるが、新制度に移行していないいわゆる未移行幼稚園については現行のまま文部科学省の管轄となる。

(意見 委員A)

新制度に移行し、市町村の管轄になる幼稚園の方が国からの補助金が手厚く感じている。ただ、移行した幼稚園には色々課題もあるという話も聞く。

今後について、市に色々相談したい。

(意見 会長)

こども家庭庁が創設されて、教育とどのように連携していくかというところがまだ不透明な部分もあるので、今後課題にして取り組んでいていただきたい。

(質問 委員B)

こども基本法にもとづく計画を策定されるということだが、岩出市は他の市町村と比較すると比較的少子高齢化の進み具合がゆっくりで、若者も多い。ただし、若者が多いが結婚家庭は少なくなっていると思われるので、今後は若者の結婚支援にも取り組んでいただきたい。

(回答 事務局)

現在は、マッチング事業による出会いの場の提供や新婚世帯への住宅支援を実施しているが十分な支援には至っていない。

こども計画を策定するにあたり、若者支援に対する政策も皆様の意見を参考にしながら取り入れていく考えである。

議題②令和5年度 管内教育・保育施設利用申し込み状況について

▶ 事務局より、利用定員の増減、施設ごとの入所児童数、待機児童数等を説明する。

(質問 会長)

毎年、年度途中の待機児童発生している傾向があるが、令和5年度はなんとかいけそうな状況のような気がするがどうか。

(回答 事務局)

発生させないように調整して取り組みます。

議題③こども家庭センター設置について

▶ 事務局より、事業目的、役割、組織再編等について説明する。

(質問 副会長)

こども家庭センターの組織について、現在、生活支援課は市役所にあるので、家庭支援係だけが保健福祉センター内に配置される形なのか。

(回答 事務局)

議会での令和5年度予算採択が条件となるが、生活支援課の家庭支援係が子ども・健康課の中に入る形を想定して準備を進めています。

(質問 副会長)

現在までの、子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点とこども家庭センターとはどのような関係性になるのか。

(回答 事務局)

虐待の死亡事例等の検証結果等をもとに、国は現在の形が機能していないということで母子保健の部分と児童福祉の部分を一体的に取り組むことを求めている。

現在の子育て世代包括支援センター、子ども家庭総合支援拠点の機能や役割は残しつつ、こども家庭センターとして一体的に取り組む形を予定している。

(意見 委員C)

①岩出市で子育て支援事業を受託しているが、他の自治体に比べて他機関との円滑な連携があげられる。特に情報共有の部分についてとても円滑に共有いただいている。理由としては、専門スキルをもった職員さんが担当を担っていることがあげられる。1年や2年では専門スキルは身につかないので、岩出市の資源として大事にしていきたい。

②県内の子育て支援を実施しているNPOの数が減少している。

児童虐待、いじめや不登校の問題は、自治体だけではいきとどかない部分があり民間にどのように託していくという部分がなければ解決できない問題であると感じるので、是非民間やNPOの支援を検討していただきたい。

③子ども・子育て会議の委員に中学校の保護者の方にも入ってもらえれば、さらなる広がりや色々な意見を徴取できると考えるので検討していただきたい。

(意見 会長)

行政として、地域の中で利用できる枠組みづくりに取り組んでもらいたい。

また、こども家庭センターでは様々な相談を受けることとなるので、保健師や

社会福祉士、心理職等の専門職の育成にも取り組んでもらいたい。

④出産・子育て応援事業について

➤ 事務局から、事業目的、事業内容について説明する。

(質問 副会長)

伴走型支援ということで、大変意義のある事業だと感じている。あとの方5万円の産婦さんに面談するのは、現在実施している「こんにちは赤ちゃん事業」とセットになっているのか。妊娠時については、妊娠届出時に面談を実施し、そこでプッシュ型の情報発信をおこなうということか。

(回答 事務局)

はい、その通りです。

(質問 委員A)

面談を実施するということだが、内容的にどんな面談なのか。

(回答 事務局)

現在も妊娠届出時に必ず専門職が面談をおこなって母子手帳を交付している。その際に、アンケートを実施したり、色々な相談に応じたりしながら、心配なことや不安なことはないか確認している。また、助産師がパパママ教室、こころていえなどの色々な事業の案内を行いながら産後の支援や妊娠中の訪問などにつなげていくということを実施している。

(質問 委員A)

最近、高学歴親が知育的なことをよく子育てに取り入れているが、私はよくないと感じている。6歳から10歳くらいまでは動物として、持つべき機能をしっかり育ててあげることが大事で、習い事など知育的のことはその基礎がしっかり育ってから取り入れて欲しいと思う。市が親との面談の機会を捉えて、まずは健康に育つことが大事であるとか、そういうことを伝えていってほしい。

(回答 事務局)

お母さん達は妊婦さんになると、色々な情報がある中で、何が正しくて何が違うのかということをして難しい情報過多になっていると思う。そういう中で市としては正しい情報を発信していければと考えています。妊婦さんやお母さんに寄

り添うというのが一番大切だと認識しておりますので、寄り添った支援を実施していきたいと考えています。

(質問 委員B)

妊娠届出時の面談とその後の5万円はセットということでもいいのか。

(回答 事務局)

全ての方に面談を実施し、その後5万円の支給ということになっています。また、妊娠中の流産等により出産に至らなかった場合でも、妊娠届出時の面談やアンケートを実施していれば、5万円給付の対象ということになっています。

質問、意見以上のため議事事項終了

7. 【その他】

(意見 委員D)

現在、PTAの役員をしています。

小学校6年生の娘の話の中で、小学校で外部から専門家を招いて「いのちの授業」という授業をしているという話を聞ききました。娘の話を聞いて、素晴らしい取り組みだと思ったので、もう少し踏み込めば子どもの小さなSOSにおとな気づけるのではないかと思いました。

例えば、「いのちの授業」を通じて保護者に宿題を出すなど、この授業について子どもと親が話す機会を設けるなどすれば、いじめや不登校の解決にも少しは繋がるのではないかと思いましたので、PTAの役員会でも情報を共有させていただきました。

(意見 会長)

児童虐待の検証をしていると、特に身体的虐待などでは子どものSOSに気づける感度が大切になってくると感じる。

(質問 委員E)

中学校の学校区について、自分の子どもが山崎北小学校に通っており岩出第二中学校に進学することになっている。学校区の関係で仲の良い友達みんな岩出中学校に進学が決まっております子どもは不安がっている。

中央小学校についても、中学校が分かれてしまうという話も聞く。難しいとは

思うが、何か対策等はないのか。

(回答 事務局)

山崎北小学校の校区の件については、市政懇談会の中でもご意見いただき回答させていただいておりますが、現状山崎北小学校で1 / 4が岩出第二中学に中央小学校で10名程度が岩出中学に行くということになっています。

小学校区でいいますと、先日、山崎小学校、山崎北小学校の校区変更を行ったところです。それは、山崎小学校の教室キャパ関係で、何名かを山崎北小学校に行っていたくための校区変更をさせていただきました。

今現在の二中と岩中の教室数と生徒数を勘案して、以前は40人学級で一クラスを作っていたので、それに合わせて教室数を決めていたが、現在中学校は1クラス35人学級で、それに加え特別支援学級の数も非常に増えているので、実質生徒数が減少していても必要な教室数は変わらない状態となっています。今の段階で山崎北小学校の生徒を全員岩出中学校に、中央小学校の生徒を全員岩出第二中学校に進学というようなことをすると、たちまち教室が不足してしまう。

将来にわたって、生徒数と教室数の推移は以前からずっと注視してきているので、今後、生徒数が減少して今の状態が緩和してきた際の検討は可能であるが、現状での校区変更はできません。

また、皆様の意見も聞きながら進めてまいります。

(意見 委員F)

まず、子どもを保育所に預けており、以前は保育所に看護師の方が在中していたが、最近は不在である。怪我する子どもたくさんいると思うので看護師を置いていただきたい。また、難しいのであれば保育士の方に応急的な手当などの技術を身につけてもらいたいと思う。

次に、補助金について2点意見がある。

1点目はインフルエンザの予防接種について、助成を実施していただきたい。

2点目は18歳までの医療費を無料にしていきたい。

(回答 事務局)

看護師について、公立保育所では随時募集はさせていただいているので、応募があれば保育所に配置するが、現在募集がない状態である。

引き続き募集に努める。

また、保育士についてはA E D等の救命救急研修は受講してもらっている。今後も研修の受講に努める。

インフルエンザの予防接種助成について、岩出市では高齢者のインフルエンザ助成は実施している。任意の予防接種については、インフルエンザ以外にも色々な種類があるので、子どものインフルエンザの予防接種の助成について、本日もご意見いただいたことを市で情報共有させていただく。

こども医療費については、市議会はじめ様々ご意見いただいている。

岩出市では、急激にこどもの数が減っていない中、人口が急激に減少している自治体のように子育て支援施策を利用して、子育て家庭を呼び込む手段としてはいません。ただし、今後少子化が見込まれる中、人口流出を防ぐ施策の一つとしてこども医療費の無償化についても研究は続けていかなければならないと考えているが、現状は限られた財源の中で、様々な福祉施策をバランスよく実施している中で1割負担をお願いしているところです。

【閉会】

11時30分閉会